



人を動かす！「コミュニケーション技術」

大学講義のアンケートに「教授の話が早い！」という意見はありますが「遅すぎる…」という意見はありません！

お父様は亡くなられた有名な映画監督の大島渚さんです、と百束会長からご紹介を受けた大島武様。とても歯切れ良いお話で、皆さん聞き入っていました。

東京工芸大学
芸術学部教授 学生部長
大島 武 様



コミュニケーションはすべて記号…です。これは言語という記号ですが、私たちはさらに日本語のルールに則ってコミュニケーションしています。

事務局にご寄付
いただきました。

参考文献

■わかりやすい話をしましょう！

コミュニケーションは誤解があって当たり前、と考えるのが基本です。どうしたら誤解を少なくすることが出来るか、は、「フィードバックする」で少なくすることができます。流行語大賞になった「いつやるの？いまでしょ！」の林修先生は質問の出ない授業が良い授業ですよ、とテレビで解説していましたが、質問は出たほうが良いのです。ヒトは「相手の話の8割9割が理解できて、あともう少しでスッキリするんだけど…」という時に質問するのです。ですから質問が出るのは相手が理解しようとしている、と解釈しましょう。

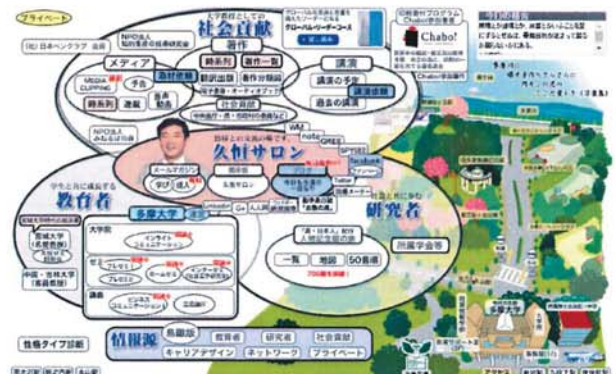


■正しいことならいつ言っても良いのか？

品川駅で「コミュニケーションの話、してあげましょうか？」って言われたら困りますよね。タイミングを見計らいましょう。

■わかりやすく話すための8か条

- ①大枠から話す
⇒概要が先、詳細はあと。(相手が聞きたい順番で)
⇒結論が先、理由はあと。
- ②具体的に話す
⇒迷ったときは具体的に！
出来るだけ早くお願いします…。は個人差が大きい。
- ③話を構造化する
⇒図に描けない話はするな。(久垣啓一・右図)
微妙な話…は、受けるほうも微妙…
- ④自信をもって言い切る
- ⑤相手の反応に合わせ、ゆっくり話す。
⇒話し手と聞き手には情報処理の時間差がある。
- ⑥相手の土俵に立って話す。
⇒そもそも「わかる」とは何か？
相手が知っていること(たとえ話でも)に関連させて伝えと、わかりやすい。
ヒトは、自分が知っていることと矛盾なく結びついたときに「わかる」。
- ⑦相手の馴染みのない言葉は使わない
⇒ヒトは会話に「自分の知らない言葉」が出てくると不快な気持ちになりやすい。
役所のヒトが専門用語を使った事例など…
- ⑧タイムマネジメントを常に意識する。
⇒私の卓話、いま20分経過していますがなんで耐えられているかわかりますか？
それは13:30に卓話が終わると知っているからです(笑)
例えば校長先生の話は「人間が最初に出会う、いつ終わるかわからない話」です。



表現技術を磨く

①アイコンタクト

目は口ほどにモノを言う



表現技術を磨く

②スマイル(笑顔)

好意の返報性とは？



SMILE ↔ LAUGH

■Don't shoot the messenger

メッセンジャーを撃ってはいけない…

例えば、部下が社長に報告する際、「お前たち！なにやってるんだ！」と怒ってはいけない。怒ってしまうと悪い報告をしなくなる…。よく知らせてくれた、と受け止めましょう。